



クオリティマネジメント社長

矢部 廣重

やべ・ひろしげ 「喜びと感動」を中心軸にした経営革命、営業革命、IT革命の戦略システムは世界中で高い評価を受けている。2,500名を超える経営者が学び、200に及ぶ業種、1,000社で大きな成果を出している。著書に『最強営業軍団』『狙ったお客の80%は落とせる』『究極の経営』などがある。
<http://www.qmw.co.jp>

【新連載】

社長の慧眼

時間を見抜く

企業活動は時間との戦いであり、時間は第5の経営資源と言われている。しかし、誰もが時間が足りないと嘆く。手帳、パソコンと、さまざまなスケジュール管理を試みるも、いまひとつ物足りない。なぜ時間はあつと言う間に過ぎ去るのだろうか。IT時代に入りそのスピードにさらに拍車がかかるいま、ビジネスマンはどう対処すべきか。この「社長の慧眼」では、これまでの常識を超える時間革命について考えてみたい。

社長の慧眼① 出社の本質を見抜く

年末に新しい手帳を買う度に、「来年こそは時間を征服するぞ」と心に誓う。しかし奮闘むなしく、一月の半ばには早くも「まあいいか」と諦めの境地。こんなパターンを何年も繰り返すうちに、「時間を征服するなんてムリ」と、ワカッチャッタ世界に入ってしまった——時間管理はビジネスマンにとり最大の関心事の一つで、誰もが挑戦しますが、うまくいったという話は聞いたためしがありません。

- ①本質を見抜こうとしない
- ②すぐにハウツーを欲しがるところにあります。物事をとことん深く洞察することをせず、表面的、一

面的、目先の発想を繰り返しては、いつまでも時間をうまく管理することはできません。しかしいったん時間の本質を見抜けば、打手はこれまでとまったく変わってくるのです。そのために原点に戻り、まず「出社とは何か」ということについてじっくり考えてみましょう。タテマエの裏にあるホンネが見えてきます。

- タテマエ…お客様に喜ばれる仕事、社会貢献をする
- ホンネ…給料をもらうため、出世

のため、より高い収入の実現

坊主めくりの要領でさらに本質に迫っていきます。すると、これまで見えなかつた世界が見えるようになります。

- 出社とは「毎日」「八時間」「自分の命を」「捨てて行くこと」
- 出社とは「自分の命と引き換えに給料をもらうこと」

いかがでしょうか。時間に対する認識がガラリと変わったのではないのでしょうか。仕事がつまらなくて腐っていた若手も、情性で仕事をしていた中堅幹部も、自分の大切な命をムダにするわけにはいかないとせば、行動が変わり、仕事が変わってくるはず。

社長の慧眼② 命のマネジメント

時間は命。この言葉の真意が理解できるようになると、「時間管理」とはすなわち「命の管理」であることが分かります。

社長の慧眼を働かせると、この時間管理にはレベルがあることが見えてきます。

- ・時間を「管理する」 ↓下
- ・時間を「経営する」 ↓中
- ・時間を「演出する」 ↓上

その違いは何か。

- ・下 ↓時間「管理」 ↓「日程」の管理
- ・中 ↓時間「経営」 ↓「成果」の管理
- ・上 ↓時間「演出」 ↓「命」の管理

本質が見えてくると、打ち手がまったく異なってくるのです。

本質が見えないうちは、給料のために適当に毎日を過ごす、仕事をきちんとこなしてさえいれればいい、という発想からぬけられませんでした。毎朝情性で出社し、仕事はただ同じやり方を漫然と繰り返しているだけ。仕事量が

時間達人への道①

- 時間を「輝かせる」
- 時間を「尊敬する」
- 時間を「主役にする」
- 時間を「恋人にする」
- 時間を「美しくする」

社長の慧眼③ 時間を輝かせる

多い、時間が足りないといつもぼやいている。頭に浮かぶのはスケジュール管理。毎年新しい手帳を買うが、時間管理は一向に進歩していない……。しかし、時間は命という本質が見えることによって、仕事を通じて自分の魅力を磨いていこう、毎日八時間の命を削るに値する仕事をしよう、そんな意欲、真剣味が出てきます。

では、どのようにして時間を輝かせ、自分の命を輝かせるか。もう少し具体的に考えてみましょう。時間を輝かせるには、現状発想から脱皮しなければなりません。時間管理とはスケジュール管理であり、手帳の活用だという考えを改めることがカギとなります。

そのためには、自分中心に考えるのではなく、「時間を中心に思考の価値観」を高めることです。「時間から誉められる」活用方法を編み出すのです。時間は無機質で、姿・形も見えなければ、香りもしないため、その大切さを考えることもなく、いたずらに浪費を続けてきました。時間を大切にしようという心がなければ、時間は闇雲に過ぎ去っていくばかりです。

本当は、心が次第で時間は自在に使えます。そのためにもこれまでの発想から脱し、時間を主役にしてまったく新しい発想で時間をとらえてみるのです。

- 時間を「輝かせる」
- 時間を「尊敬する」
- 時間を「主役にする」
- 時間を「恋人にする」
- 時間を「美しくする」

時間達人への道②

- 黄金の週末
- ・ 歓喜の月々金
- 「燃える」月曜日
- 「感動の」火曜日
- 「面白い」水曜日
- 「楽しい」木曜日
- 「光輝く」金曜日

このような意識で時間に処するので、これを踏まえて、まずは自由の自由にできる時間、休日をいかに輝かせるかを考えていきましょう。

例えば自分の休日を、

「黄金の」週末

と命名します。そして土日をそれぞれ、

- ・「趣味を生かす」土曜日
- ・「家族を歓喜させる」日曜日

と位置づけ、これに沿って具体的な実践を続けていくのです。ただ漫然と浪費してきた週末から、家族も自分も満足できる充実した週末となり、俄然輝き始めるはずですよ。

続いて仕事の時間、月曜から金曜までの平日をどのように過ごしたいかを考え、それぞれにふさわしい命名をします。

- ・「燃える」月曜日
- ・「感動の」火曜日
- ・「面白い」水曜日

- ・「楽しい」木曜日
- ・「光輝く」金曜日

これはあくまで一例です。自分の気持ちにピッタリくるキーワードを考え、それぞれの曜日に当てはめてみましょう。

こうしたキーワードづくりが単なる言葉遊びで終わることなく、「時間を輝かせるキーワード」として生きてくるためには、「時間は命」という新しい意識で毎日を過ごすことが大前提となります。

そして、朝起きた時、通勤途中、朝礼の時、折あるごとにこのキーワードを思い起こし、意識することで、時間を大切に作る心構え、気配りが強固なものになります。これが時間管理に成功するためのカギとなり、ここから新しいドラマが始まるのです。

社長の慧眼④

時間は自分の命と考えて慈しみ、時間を輝かせようと工夫を重ねていくことによって、自分が変わり、時間が変わります。

時間を愛するとは、命を愛すること、

時間達人への道③

- 五分の——「愛着」
- 二十分の——「情熱」
- 一時間の——「気迫」
- 半日の——「充実感」
- 一日の——「感謝の心」

すなわち自分の命を愛することです。

時間を輝かせるとは、命を輝かせることであり、自分の命を輝かせることです。

時間を主役にするとは、命を主役にするものであり、それはとりもなおさず自分の命を主役にするにほかならないのです。

曜日ごとに時間を輝かせるキーワードを作った後は、時間の長さを主役にするキーワードを考えてみます。

- ・五分の「愛着」
- ・二十分の「情熱」
- ・一時間の「気迫」
- ・半日の「充実感」
- ・一日の「感謝の心」

さらにこれを二次展開します。

- 五分…「愛着の積み重ね」
大切な時間
- 二十分…「情熱と集中力」
最高の時間
- 一時間…「命を磨く気迫」
魅力の時間
- 半日…「充実感でいっぱい」
幸福な時間
- 一日…「感謝の心磨く」
至福の時間

心次第で自在に変化する——時間とは不思議なものです。時間を自分の命と考えることで、時間の魅力があふれてきます。時間を魅力的にしようと意識することで、仕事の概念が変わり、面白くない仕事、最高の時空の中で自分の命を削るに値する仕事へ質的に変化していくのです。

時間を主役にし、時間を喜ばせる、時間を歓喜させる。こうした意識を持つことによって時間は変わっていきます。時間を大事にする人は、時間から大事にされる。これこそが時間活用の極意なのです。